

西暦 2022 年 7 月 6 日

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業

研究経過／終了報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 国立精神・神経医療研究センター病院

申請者 平林 直次

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて行う研究について、

- 継続中につき、経過を報告します。
 終了したので、結果を報告します。

| | | | |
|---|----------|-----------|--|
| 申請 番号 | MTSA-002 | 研究 課題名 | 重大な他害行為の予防体制の構築に向けた基礎的研究 —入院データベースを用いた司法関与の経過の理解— |
| 研究結果（経過）： データセットの提供を受けてから 2022 年 3 月までに、データセットの加工、記述統計のほか、医療観察法対象者の入院期間に関連する予測因子を明らかにすることを目的に機械学習による解析を行った。 抗告または死亡以外の事由で退院した対象者 633 名のうち、欠損値のない 618 名のデータを 8 割の学習データと 2 割の検証データにランダムに分割し、重回帰モデルを作成して予測精度を計測することを 10000 回反復し、回帰係数が高頻度でゼロとなる変数を除外していく方法により、予測に有効な変数を選別した。 その結果、交互作用項を含む 13 因子からなる予測モデルが作成された。入院長期化の予測に強く関連した因子は「入院 90 日以降の隔離の開始」「ICD-10 診断 F8×入院 90 日以降の隔離の開始」「成人司法回数 2 回」などであった。 ここから、急性期が過ぎた時期に顕在化する、発達障害特性に関連した問題行動が入院を長期化させる可能性が示された。成人司法対応回数も含めて入院長期化に関連する変数は、生きにくさや生活上の積み残し課題の存在を反映していると考えられ、障害特性に応じた処遇の工夫とともに、対象行為に至る以前の支援の充実も必要と思われた。 | | | |
| 上記公開に際しての希望： <input type="checkbox"/> すぐに公開してよい。 <input checked="" type="checkbox"/> 2022 年 8 月以降に公開してよい。 <input type="checkbox"/> その他（ ） | | | |
| 研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）： なし | | | |

※事務局記入欄

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 初回申請 | 年 月 日 | 初回承認 | 年 月 日 |
|------|-------|------|-------|